

(16) 食用ギク(コギク)

主要病害虫別防除方法

農薬による防除については、栽培ステージ、病害虫の発生状況等に応じて、散布、灌注、土壌消毒などを行う。

なお、農薬による防除の際は、農薬登録内容や使用上の注意等を遵守して実施する。

(農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除
白さび病 (<i>Puccinia</i>)	①親株は無発病株を用いる。 ②被害葉はかきとって適切に処分する。 ③施設栽培では、マルチなどによって過湿を避ける。 ④草勢を良好に保ち、肥料不足や窒素過多を避ける。 【参考事項】 品種により発病に差がある。 雨よけ栽培では6月の梅雨期や9～10月の秋雨の時期に発生が多くなる。 施設栽培では晩秋から春にかけ施設を閉め切った時間が長くなる時期に発生が多い。 最低気温が25℃以上の盛夏期には、ほとんど発生は見られない。  白さび病葉表の病斑
褐斑病 (<i>Septoria</i>)	①被害葉はかきとって適切に処分する。 ②窒素過多を避ける。 【参考事項】 摘心直後の降雨は発生を助長する。 露地栽培では発生しやすいが、施設栽培では発生が少ない。 育苗中の発病苗が伝染源となる。
ミナミキイロアザミウマ	①未発生施設では苗の移動に伴う持込みに注意する。 ②施設の開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットや0.8mm目合いの赤色系ネットを張り、侵入を防止する。 ③収穫の終わった株など、不必要な株、花及びほ場内の雑草は本種の発生源となるので、速やかに処分する。 ④マルチ栽培は土中での蛹化防止に効果がある。 ⑤シルバーマルチを、通路を含めた全面に張る。 ⑥施設周辺の雑草を除去する。 ⑦発生施設では収穫後密閉し、高温にして殺虫する。 ⑧青色の粘着板で捕殺し密度を下げるとともに発生予察を行う。 【参考事項】 ナス、ピーマン、キュウリ、トウガラシ、スイカ、メロン、ホウレンソウなどに発生が多いので、近くではできるだけ栽培しないようにする。 トマト黄化えそウイルス (TSWV) を媒介する。   ミナミキイロアザミウマ成虫 ミナミキイロアザミウマによる被害
ミカンキイロアザミウマ	①未発生施設では苗の移動に伴う持込みに注意する。 ②施設の開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットや0.8mm目合いの赤色系ネットを張り、侵入を防止する。 ③収穫の終わった株など、不必要な株、花及びほ場内の雑草は本種の発生源となるので、速やかに処分する。 ④マルチ栽培は土中での蛹化防止に効果がある。 ⑤シルバーマルチを、通路を含めた全面に張る。 ⑥施設周辺の雑草を除去する。 ⑦発生施設では収穫後密閉し、高温にして殺虫する。 ⑧青色の粘着板で捕殺し密度を下げるとともに発生予察を行う。 【参考事項】 本種は花卉や芽の隙間に生息している。 トマト黄化えそウイルス (TSWV)、キク萎えそウイルス (CSNV) を媒介する。   ミカンキイロアザミウマ成虫 ミカンキイロアザミウマによる被害

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	
アブラムシ類	①施設の開口部に目合い1mm以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。 ②施設周辺の雑草を除去する。 【参考事項】 ワタアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシなどが寄生する。	  ワタアブラムシ キクヒメヒゲナガアブラムシ
マメハモグリバエ	①施設開口部に目合い0.8mm以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。 ②幼虫の食害痕の有無をよく観察し、本種が発生していない苗を定植する。 ③マルチ栽培は土中での蛹化防止に効果がある。 ④発生源となるほ場周辺の雑草は除去する。 ⑤改植時、土壌消毒（太陽熱）により蛹を死滅させたり、蒸込みにより成虫を死滅させる。 【参考事項】 本種は幼虫が葉内を穿孔加害して不規則な線上の被害痕を残す。成熟した幼虫は葉を脱出して土壌中で蛹化する。雌成虫の産卵痕・摂食痕は、葉上に直径1mm程度の白い斑点となり残る。寄生範囲は極めて広い。	
ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ヨトウムシ	①施設の開口部に目合い4mm以下の防虫ネットを張り、侵入を防ぐ。 ②ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの孵化直後の幼虫は集団で加害しているので、捕殺する。 【参考事項】 8月からの発生が多く、葉、蕾、花を加害する。オオタバコガ、シロイチモジヨトウは、若齢幼虫が新芽部分に食入して加害する。	  ハスモンヨトウ卵塊（毛に覆われている） ハスモンヨトウ若齢幼虫
ハダニ類	①発生源となるほ場周辺の雑草は除去する。 ②多発した場合、改植時に施設内の植物を全て除去し、1週間程度密閉する。 【参考事項】 ナミハダニ、カンザワハダニなどが寄生する。 気温15℃以上で増殖をはじめ、25℃では約10日で卵から成虫になる。	  ナミハダニ カンザワハダニ
ネグサレセンチュウ	①対抗作物（マリーゴールド、ハブソウ）を栽培する。 ②夏期高温時にハウスを密閉して湛水処理する。 【参考事項】 対抗植物を栽培する場合は、根量を十分に確保することが防除効果を高めるポイントであるので、十分な栽培期間を確保する。また、対抗植物は、品種、系統により効果に大きな差があるので、防除効果の高い品種を選定する。	